

スマート捕獲等普及加速化事業 モデル地区取組概要

令和7年8月

ページ	実施主体 (協議会を含む)	対象獣種	取組内容 (◎は主な取組)			
			捕獲	追払	点検	他
1	北海道津別町	シカ	○	◎	－	－
2	北海道別海町	シカ、クマ、中型獣類 (キツネ、タヌキ)	◎	○	－	－
3	岩手県奥州市	全般	○	○	－	◎
4	茨城県鉾田市	イノシシ、中型獣類、鳥類 (カラス)	◎	○	－	○
5	埼玉県飯能市	全般	◎	○	－	○
6	新潟県新発田市	イノシシ、サル	◎	○	○	－
7	福井県越前市	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	－
8	兵庫県	シカ、イノシシ、中型獣類	◎	○	○	○
9	広島県	全般	○	○	◎	○
10	香川県東かがわ市	シカ、イノシシ	◎	－	○	－
11	愛媛県鬼北町	シカ、イノシシ	◎	－	○	－
12	高知県香美市	鳥類 (カワウ)	－	◎	－	－
13	高知県大豊町	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	－
14	佐賀県佐賀市	イノシシ、中型獣類 (アライグマ)	◎	－	○	－
15	熊本県人吉市	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	○
16	鹿児島県南種子町	シカ、鳥類 (カラス、カモ)	◎	○	○	－

※このほか調整中の地区あり

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R8	北海道津別町	シカ	○	◎	—	—

現状・課題

エゾシカについて、猟友会による捕獲及び畑の外周への防護柵の全町的な設置により、畑への侵入を防いできたが、設置から約10～20年が経過した現在では、河川横断部等の地形的に防護柵が設置できない開口部からの侵入が相次いでおり、被害の防止に至っていない状況。

事業概要

- ・鹿の忌避音を出力する超音波スピーカー、動きを感知し音を出すパッシブセンサーによる「慣れ」を生じさせない追払いの実証
- ・追払い機器設置前にセンサーカメラで得られたシカの侵入ルート情報を、くくりわなの設置にも活用し、捕獲と侵入防止対策を複合的に実施することで、シカの警戒心を誘発させる

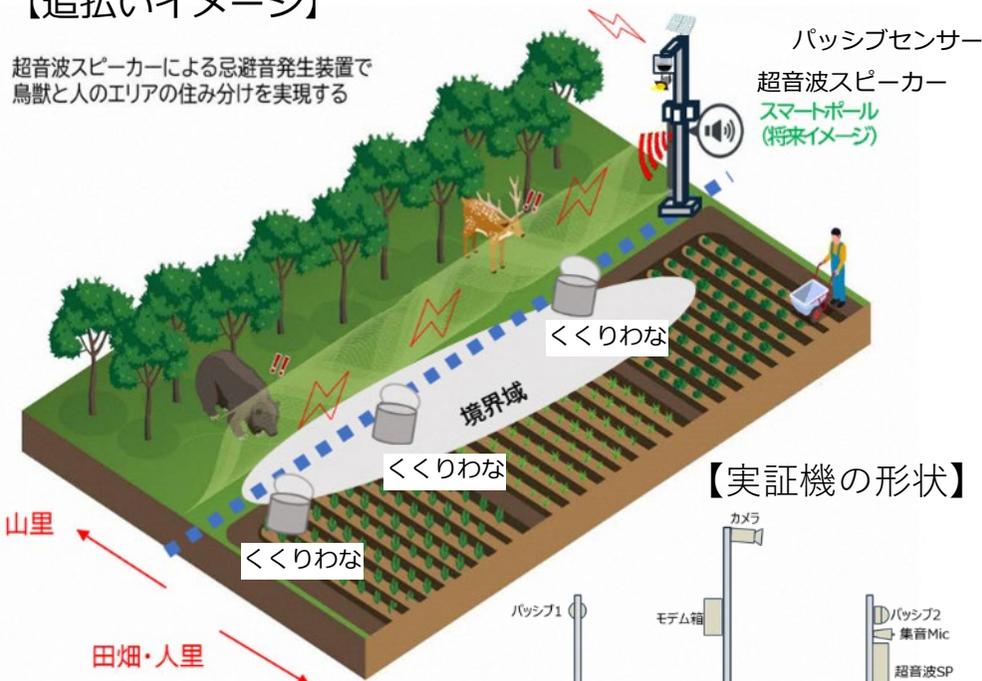
活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・赤外線センサー
- ・超音波スピーカー
- ・捕獲通知機器

モデル地区の普及範囲

- ・オホーツク管内の市町村
- ・阿寒摩周国立公園周辺市町村

【追払いイメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	北海道別海町	シカ、クマ、中型獣類（キツネ、タヌキ）	◎	○	—	—

現状・課題

ヒグマによる農業被害（家畜襲撃）の拡大が懸念されるほか、別海町は広大な面積を有することから、鳥獣被害対応に係る職員の負担（休日を含むわなの見回り業務）が課題となっている。

事業概要

- ・ 捕獲檻付近に設置するセンサーカメラやドローンにより、効率的かつ安全なヒグマ捕獲・追払いを実施
- ・ 遠隔監視わなによるシカ・中型獣類の効率的な捕獲の実施

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ センサーカメラ
- ・ 赤外線センサー搭載ドローン
- ・ 遠隔捕獲機器

モデル地区の普及範囲

- ・ 道内（近隣市町村を中心）

【ヒグマ対策イメージ】



・ 現地へ行かなくても、わなの見回りが可能

・ 遠隔地から安全に追払い

【遠隔捕獲イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	岩手県奥州市 (奥州市鳥獣被害防止総合対策協議会)	全般	○	○	—	◎

現状・課題

奥州市江刺伊手地区では特に高齢化や人口減少が進んでおり、地域ぐるみで持続的に鳥獣被害対策を実施していくためには、ICT機器及びデータを活用した生息状況調査に基づく効果的・効率的な捕獲モデルを構築することが必要。

事業概要

- ・センサーカメラ及びドローンにより生息・出没状況を把握・解析してデジタルマップを作成し、住民と情報共有することで、地域ぐるみの対策を推進
- ・データに基づく捕獲や遠隔監視・自動操作システム等を活用した効率的なスマート捕獲体制整備による被害防止対策の実施
- ・研修会の開催による新技術実証の普及定着の促進

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン
- ・センサーカメラ
- ・遠隔捕獲機器

モデル地区の普及範囲

- ・県内

【イメージ】

鳥獣の生息・
出没状況を把握



伊手地区
鳥獣デジタルマップ（仮）



データに基づく対策

（捕獲活動への活用）
新技術による効果的な捕獲の
実施

地域ぐるみの被害防止
対策への活用（農作
物・クマ対策等）

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7~R9	茨城県銚田市 (銚田市鳥獣被害防止対策協議会)	イノシシ、中型獣類、鳥類（カラス）	◎	○	—	○

現状・課題

近年、有害鳥獣（イノシシ・ハクビシン・アライグマ・カラス）による農作物被害が増加する一方、捕獲者である猟友会の高齢化や担い手不足が課題となっており、捕獲の効率化・負担軽減が必要。

事業概要

- ・ドローンを活用し、イノシシの目撃、被害、捕獲があったエリアで広範囲かつ安全な生息調査を実施。更にAI診断による生息域や行動パターンのデータを捕獲に活用
- ・既に活用している捕獲通知機器に対し、より電波受信範囲が広いとされる機器の導入実証を実施
- ・カラスの追払い対策として音波発信機の実証を行い、効果が期待できれば更に獣類用の導入を検討

活用機器

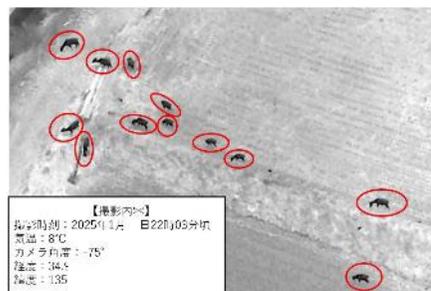
- ・ドローン
- ・捕獲通知機器
- ・追払い装置

モデル地区の普及範囲

- ・県内外

【イメージ】

生息調査



追払い装置



捕獲通知



銚田市

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	埼玉県飯能市	全般	◎	○	—	○

現状・課題

飯能市など県西部の山間部はイノシシ、シカの生息密度が高く、県内被害額の過半を占める。一方、捕獲を主に担う地域猟友会の高齢化が進み、特に急斜面等の多い山間部ではわなの見回りも難しい。また、現行は捕獲数以外のデータが得られていない。効果的な対策に向けては、捕獲労力の軽減及び生息状況等のデータの収集が必要。

事業概要

- ・センサーカメラと捕獲わな監視システムによる、わなの見回りの省力化
- ・捕獲データから作成する調書やカメラで得られた画像を元にマッピングし、生息状況・捕獲情報等を可視化し、捕獲に活用
- ・生息状況の画像は野生動物生態研究者に提供し、捕獲技術の向上に活用

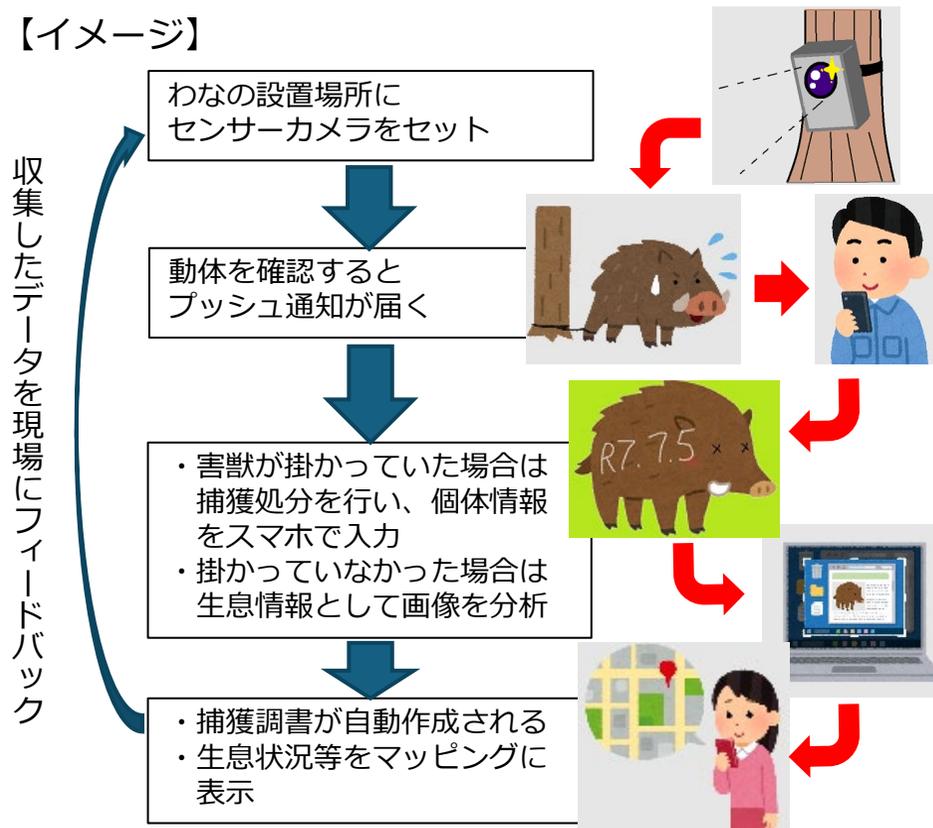
活用機器（機器名：メーカー）※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・捕獲通知機器
- ・捕獲調書システム

モデル地区の普及範囲

- ・市内別地域
- ・県内外

【イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	新潟県新発田市	イノシシ、サル	◎	○	○	—

現状・課題

近年、イノシシによる農作物被害が増加傾向にある上、市内養豚場では家畜伝染病も発生しており、イノシシ対策は喫緊の課題となっている。加えて、捕獲を行う猟友会の高齢化や対策を行う中山間地域の人口減少などにより、人手不足といった課題も発生しており、限られたマンパワーの中でイノシシ対策を効果的に行っていくことが必要。

事業概要

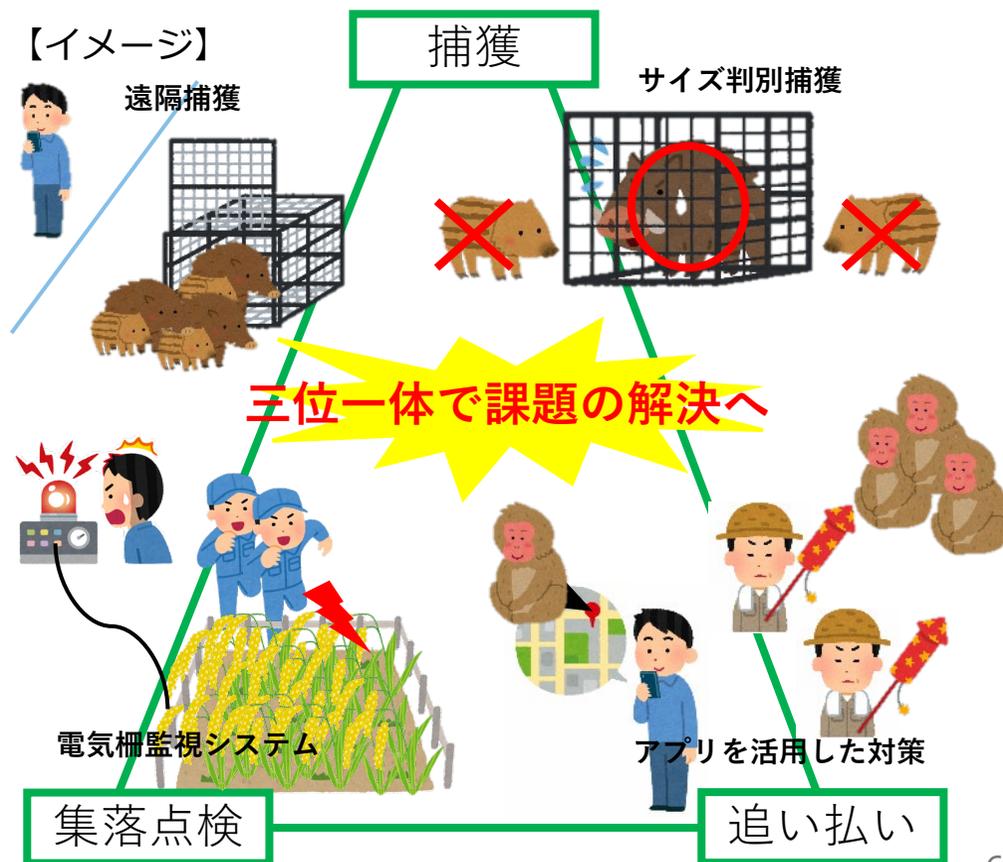
- ・イノシシ捕獲に遠隔操作捕獲機器等を活用し、幼獣のみの捕獲や学習個体の発生を防止し、精度の高い一まとりごと捕獲を実施
- ・行政、JA、市民がイノシシ・サルの被害・出没状況を投稿・確認できるアプリを導入し、各集落による迅速な自助・共助の対策を実施
- ・電気柵監視システムによる、柵管理の効率化と修繕の迅速化

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・遠隔捕獲機器
- ・サイズ判別捕獲機
- ・電気柵監視システム
- ・鳥獣出没等確認アプリ

モデル地区の普及範囲

- ・県内外（東日本）



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	福井県越前市	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	—

現状・課題

以前はイノシシによる被害が中心であったが、近年はニホンジカが目撃、被害が増加しており、またニホンザルの群れの加害レベルが悪化している（令和5年の被害額は27,196千円（前年比295%）と激増）。
 これまで、侵入防止柵を集落単位で整備し、地元住民により設置、維持管理および山際の草刈りなどを行ってきたが、高齢化・人口減少などで適切な維持管理が難しくなってきた集落も出てきている。

事業概要

- ・遠隔捕獲機器・捕獲通知機器等による、捕獲の効率化・見回りの省力化
- ・電気柵監視システムによる電気柵点検の省力化
- ・GPSを活用したサルの個体群の動態把握と、威嚇音声を搭載したドローンによる追払いの実施

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン
- ・GPS首輪発信機
- ・捕獲通知機器
- ・遠隔捕獲機器
- ・サイズ判別捕獲機
- ・電気柵電圧監視システム

モデル地区の普及範囲

- ・県内外

【イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	兵庫県	シカ、イノシシ、中型獣類	◎	○	○	○

現状・課題

森林動物研究センターの研究成果や現場指導から得られた知見やデータに基づく被害対策を推進してきた結果、平成22年度以降農林業被害額は減少傾向で推移してきたが、直近では4.5億円前後と減少が鈍化している。
 その背景には、集落や生産者組織で高齢化や離農が進み、これまで獣害対策にかけていた労働力の確保が困難になっていることが挙げられる。

事業概要

- ・加害獣種の同定や捕獲場所の選定に通信機能付きセンサーカメラを活用し、撮影データを解析することで、侵入経路を明らかにし防護柵を点検するほか、捕獲檻の餌付け状況を確認・改善し効率的な捕獲活動を実施
- ・併せてSDカードの交換労力削減も実証
- ・県のGISによる被害状況やSNSを活用した点検状況の可視化・住民への共有

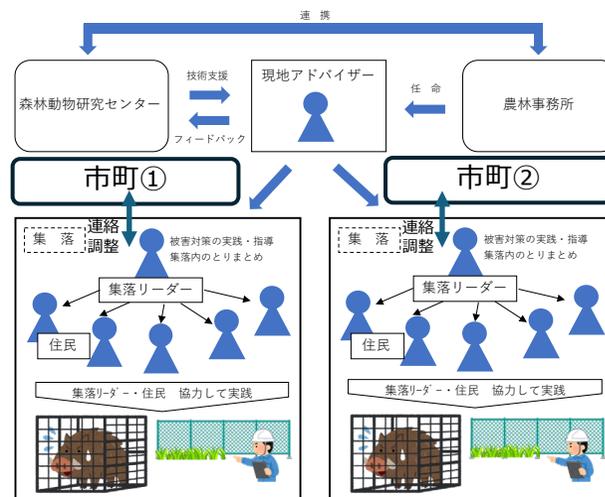
活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・捕獲通知機器
- ・GIS
- ・ファイル共有システム

モデル地区の普及範囲

- ・県内外

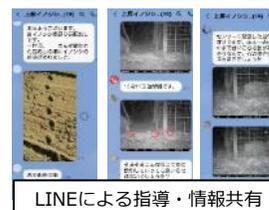
【対策の実践支援スキーム】



【取組内容】



【スマート技術活用例】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	広島県	全般	○	○	◎	○

現状・課題

依然として深刻な鳥獣被害に対し、集落や捕獲従事者の高齢化・マンパワー不足が進んでおり、スマート技術を活用した対策の省力化と効率化が求められる。

広島県においては、令和6年度から、高度な技術力を有するフィールドアドバイザーが自治体における対策を支援する、（一社）広島県鳥獣対策等地域支援機構（通称「テゴス」）を設置し、効果的な対策を推進しており、今回、テゴスによる現状把握・対策・現地指導それぞれの段階において、ICTを活用した対策の実証に取り組み、県内全域への実装と技術の普及を図る。

事業概要

- ・ドローンによる夜間飛行での生息調査や、放任果樹、潜み場、柵の破損の有無等集落点検の省力化
- ・遠隔でのゲート・カメラ操作により、サルを群ごと捕獲する技術の実証
- ・ワイヤーメッシュ柵を用いた安価で設置の容易な囲いわなを、通信圏外でも遠隔操作できるゲートシステムの開発
- ・GPS首輪を装着したサルの群れの位置情報を追払い隊に自動配信する技術の実証
- ・IoT機器による、テゴス本部や専門機関から現場へリアルタイムで遠隔指導ができる技術の実証
- ・ドローンで収集するデータ、目撃情報・被害状況、捕獲確認アプリの捕獲位置、集落調査結果等を無料のGISで見える化し、関係者間で共有
- ・鳥獣対策専門組織「テゴス」に蓄積した技術を県内へ普及

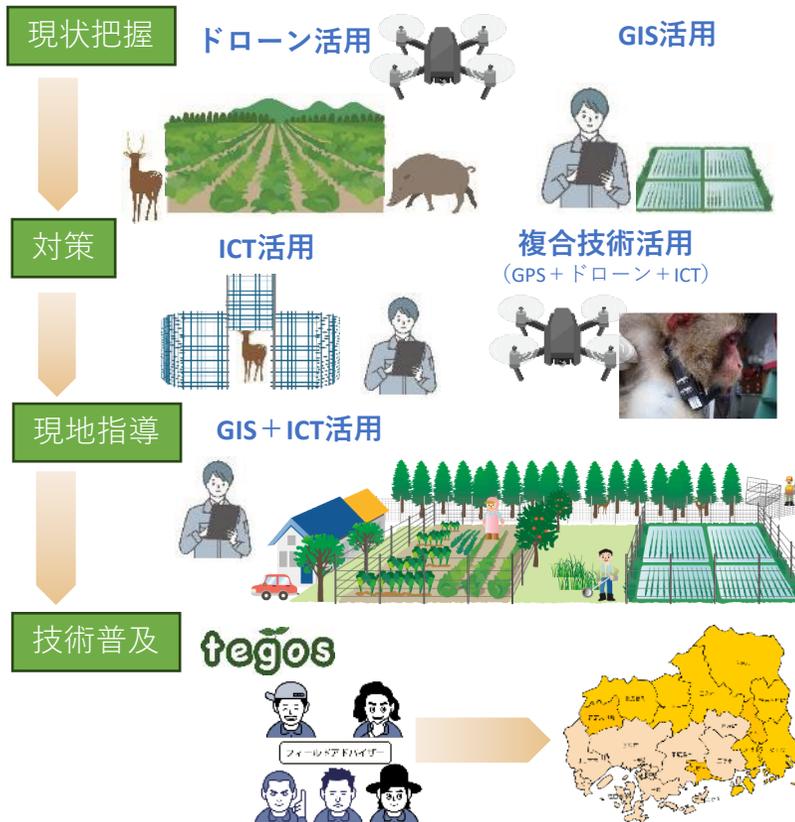
活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン
- ・通信型スマート捕獲システム
- ・GPS付首輪
- ・タブレット

モデル地区の普及範囲

- ・県内

【イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	香川県東かがわ市 (東かがわ市農作物被害防止対策協議会)	シカ、イノシシ	◎	—	○	—

現状・課題

県の狩猟免許所持者のうち約60%が60歳以上となっており、設置後のわなの見回りが課題となるほか、侵入防止柵を設置する地域住民の高齢化が進み、点検・補修等の維持管理も課題となっている。

事業概要

- ・センサーカメラを導入し、カメラを設置したICTわなと通常のわな間の捕獲効率を比較し、省力化を検証。併せて、設置したわな周辺の生息状況などの確認を行い、より効率的な捕獲を実証
- ・電気柵監視システムを導入し、システム導入をした電気柵と通常の電気柵間の見回り時間、電圧の推移等を比較検証し、省力的な柵管理を実証

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・電気柵監視システム

モデル地区の普及範囲

- ・県内及び四国地域を中心とした近県

【イメージ】

- センサーカメラを活用した捕獲



センサーカメラを設置し、わな周辺を撮影

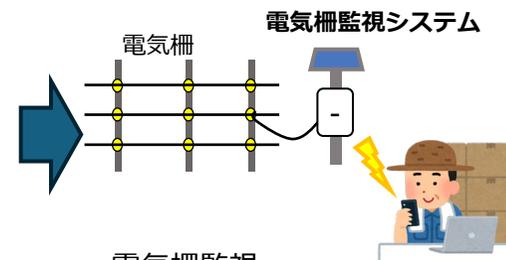


撮影データを分析し、効率的な捕獲を実証

- 電気柵監視システムの導入



従来は定期的に現地で電圧等を点検



電気柵監視システムにより遠隔地で監視や確認

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	愛媛県鬼北町	シカ、イノシシ	◎	—	○	—

現状・課題

県の南部にあたる南予地域で約65%の被害が発生している。
 鬼北町においては、狩猟免許所持者のうち約70%が65歳以上となっており、設置後のわなの見回りが課題となるため、ICT機器の導入により、捕獲者の見回り負担を軽減することによって有害鳥獣の捕獲活動を推進し、「鬼北町鳥獣被害防止計画」の被害軽減目標（金額16,467千円、面積16.60ha）を達成する。

事業概要

- ・ 捕獲通知機器による省力的な捕獲の実践。また、捕獲確認までの時間を短縮することで、併せてジビエ利用（ベッドフード）の増加につなげる
- ・ 捕獲データはアプリで集約し、個体数管理等に活用

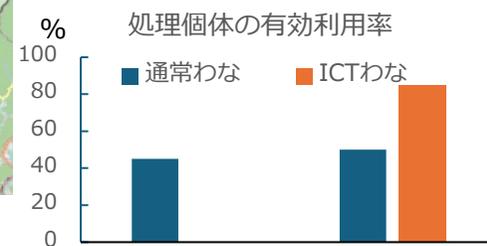
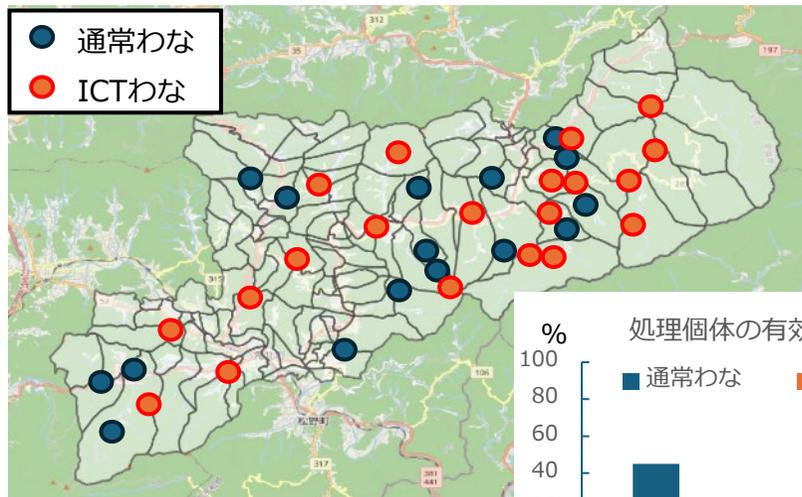
活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ 捕獲通知機器
- ・ 捕獲報告アプリ

モデル地区の普及範囲

- ・ 県内外

【イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	高知県香美市 (香美市有害鳥獣被害対策協議会)	鳥類 (カワウ)	—	◎	—	—

現状・課題

近年、物部川流域に飛来するカワウの数が増加し、それに比例して同流域に作られる仮ねぐらの数も増加しているが、従来のカワウ対策（捕獲、追払い）では実施困難な箇所が多数あり効果が限定されるため、飛来数、仮ねぐら数の増加に歯止めがかかっていない。

事業概要

- ・物部川流域の捕獲及び追払い活動が困難な箇所にあるカワウの仮ねぐら等に対し、ドローンを活用した効果的な追払い（音の種類、物理的方法等）を実証
- ・物部川漁業協同組合と鳥獣被害対策実施隊が連携して実施

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン（スピーカー・花火発射台等搭載機）

モデル地区の普及範囲

- ・四国内

【イメージ】



実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	高知県大豊町 (大豊町有害鳥獣被害対策協議会)	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	—

現状・課題

山岳部に位置し鳥獣被害対策が必須となる当町において、有害鳥獣駆除を担う捕獲従事者や、柵の設置・追払いなどを行う被害対策の実施者の高齢化・減少が課題となっている。

事業概要

- シカ、イノシシについては、集落の被害状況をアプリに集約し、柵や集落点検、捕獲等の計画作成に活用。特に出没の多い集落林縁部にICTわなを網羅的に配備し、効率的な捕獲を進めるとともに、センサーカメラにより、誘引状況を可視化して捕獲の精度を向上。住民はわなの設置、見回りを担い、地域と猟友会がICTで連携するモデルを育成
- サルについては、県の群れ調査結果を踏まえた捕獲計画を策定し、ICT大型檻で群れ捕獲を実施。併せて住民へのサル出没情報の配信や追払い、柵の設置等の研修を進め、群れ捕獲と地域主体の被害対策による被害軽減モデル集落を育成。捕獲実施後は被害程度のアンケートや住民意識の調査などにより、群れ捕獲の効果を定量的・定性的に把握

活用機器※交付金活用外の機器を含む

- センサーカメラ活用機器
- 捕獲通知機器
- 遠隔捕獲機器
- 鳥獣出没等確認アプリ

モデル地区の普及範囲

- 県内外

【イメージ】

地域と猟友会がICTで連携するモデルを育成



住民への研修
↓
住民によるアプリ
情報を踏まえた
わなの見回り、
追払い、柵の設置

特に出没の多い
集落林縁部に
ICTわなを配備

センサーカメラ、
捕獲通知機器で
状況を確認

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	佐賀県佐賀市 (佐賀市鳥獣害対策協議会)	イノシシ、中型獣類 (アライグマ)	◎	-	○	-

現状・課題

令和元～5年のイノシシ捕獲頭数は、少ない年が1,300頭前後、多い年は2,700頭と年次格差が大きく、高く推移している。一方でイノシシによる農作物被害額は、令和4年に減少した年があったものの、1,000万円前後で高止まりしているため、より効果的に農作物被害を減らすことができる加害イノシシの捕獲を進めるとともに、今後、高齢化による捕獲従事者の減少も懸念されることから、捕獲アプリ等によるデータを活用したより効率的で効果的なイノシシ捕獲対策を推進し、農作物被害軽減を図る。

事業概要

- ・イノシシの生息域との境界に当たる市内北部地域において、捕獲者の捕獲情報と要した日数を捕獲確認アプリで収集し、CPUE（捕獲効率（捕獲努力量当たりの捕獲数））の分析と捕獲場所の可視化を行うことで、メッシュ毎の生息数推定等を行い、これらを踏まえた被害減少のための捕獲計画の策定や対策の改善を実践
- ・更に市内金立地区を先進モデル地区として、被害農地や柵の整備位置等の情報も地図上で可視化し、被害実態と捕獲状況を照らした、被害減少に更に効果的な捕獲計画策定や対策を実践
- ・可視化データを集落点検に活用し、柵管理や放任果樹の伐採等を効果的に実施

活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン
- ・センサーカメラ
- ・遠隔捕獲機器
- ・捕獲確認アプリ

モデル地区の普及範囲

- ・県内

【イメージ】

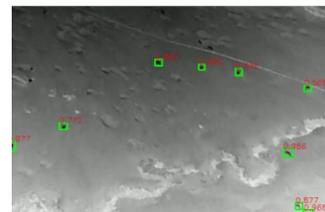
効果的な捕獲の実践

調査



被害場所のヒアリング

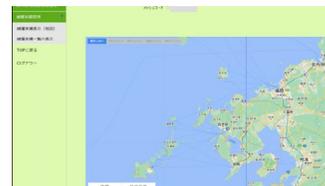
生息調査



ドローン活用

▶生息調査の効率化と併せて、データ解析を行うことで加害個体捕獲へつなげる

捕獲対策



捕獲確認アプリ



センサーカメラ付き箱罠

効果確認



CPUE分析等

▶データを可視化して、被害減少につながっているか効果の検証を行う

捕獲計画の策定・対策の改善（PDCA）に活用¹⁴

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7~R9	熊本県人吉市 (人吉市有害鳥獣被害対策協議会)	シカ、イノシシ、サル	◎	○	○	○

現状・課題

人吉市ではイノシシ、シカ、サルによる農作物被害が確認されており、特にサルは群れを成して行動しているため人的被害も懸念されている。イノシシやシカについても、電気柵や箱わなの導入を進めているが、より効果的な対策に向けては、各対策を一元的に見える化し、データに基づく計画策定・対策の実践が必要。

事業概要

- ・サルの生息調査結果や行動範囲のデータ化、民家等への接近通報システムの構築により、迅速な追払いを実施
- ・イノシシ、シカ対策としての電気柵遠隔監視システムや捕獲通知機器により、柵管理やわなの見回り負担を軽減
- ・生息調査、行動監視、捕獲報告データ等を可視化した総合プラットフォームを構築し、データに基づく対策を実践

活用機器※交付金活用外の機器を含む

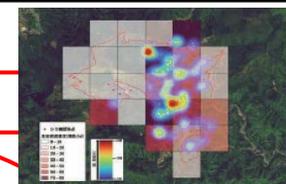
- ・ドローン
- ・大型檻わな監視システム
- ・センサーカメラ
- ・捕獲通知機器
- ・GPS
- ・電気柵監視システム
- ・GIS

モデル地区の普及範囲

- ・県内外

【イメージ】

GISプラットフォーム構築（見える化）



サル対策

生息状況調査・行動把握
生息調査（委託）
サルデータGPS



サーマルドローン導入



捕獲確認
アプリ

イノシシ・シカ対策

電圧監視システム
捕獲わなシステム
捕獲位置マップ



電子トリガー 侵入センサー 主装置 ネットワークカメラ ソーラー・バッテリーシステム

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	鹿児島県南種子町 (南種子町鳥獣被害対策協議会)	シカ、鳥類（カラス、カモ）	◎	○	○	—

現状・課題

シカについて、生息地の拡大を踏まえた捕獲強化が必要であるが、地理的に見回りが困難なエリアが存在。また、近年生息数が増加しつつあるカモ・カラス類に対し、高齢化・人口減少が進む中、限られた人員で駆除・追払いを行う必要がある。

事業概要

- ・捕獲通知機器のGPS情報（捕獲地点の情報）や、センサーカメラで得られた生息調査情報、町公式で収集する目撃・被害情報をGISに連携・集約し、可視化することで、わなの見回り負担を軽減しつつ、生息・目撃・被害状況を踏まえた効果的な捕獲・追払い・集落点検を実施

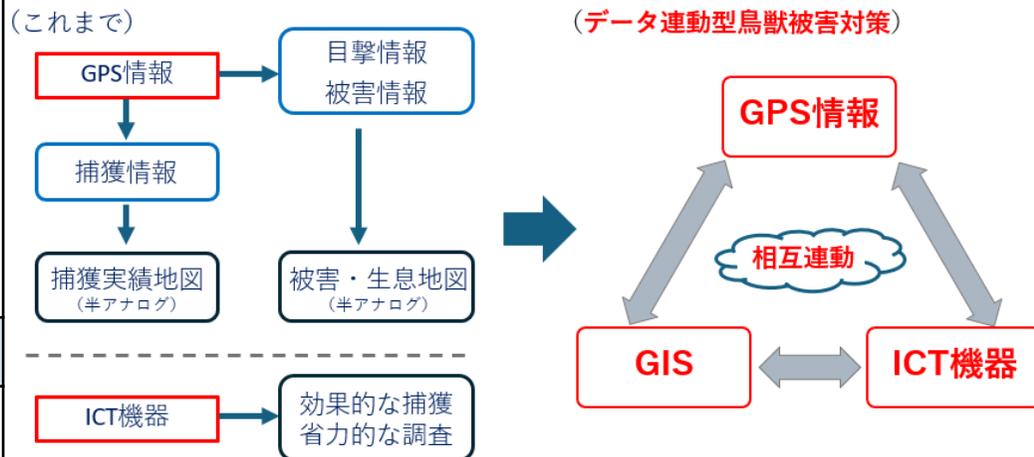
活用機器※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・捕獲通知機器
- ・サイズ判別捕獲機
- ・GPS
- ・GIS

モデル地区の普及範囲

- ・県内外

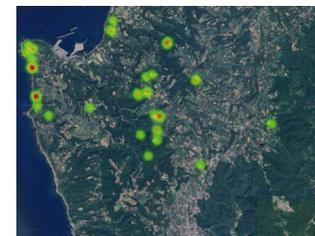
【イメージ】



センサーカメラ



捕獲通知機器



GIS

スマート捕獲等普及加速化事業 モデル地区一覧

令和7年8月
※このほか調整中の地区あり

活用機器

	ドローン
	センサーカメラ
	位置情報取得・地図化
	GPS首輪発信機
	捕獲通知
	遠隔捕獲
	追い払い
	侵入防止柵監視
	申請・捕獲確認

北陸

⑥新潟県新発田市



⑦福井県越前市



近畿

⑧兵庫県



九州

⑭佐賀県佐賀市



⑮熊本県人吉市



⑯鹿児島県南種子町



北海道

①北海道津別町



②北海道別海町



東北

③岩手県奥州市



関東

④茨城県銚田市



⑤埼玉県飯能市



中国四国

⑨広島県



⑫高知県香美市



⑩香川県東かがわ市



⑬高知県大豊町



⑪愛媛県鬼北町

